

四国圏域生態系ネットワークの推進状況

生態系ネットワークとは

生態系ネットワークとは、多様な野生の生き物がくらす地域を実現するために、保全や再生すべき自然環境や優れた自然条件を有している場所を拠点・軸として、これらをつないでいく取組です。多様な主体が連携して、生態系ネットワークの形成に向けた取組を行うことで、地域の自然環境が豊かになるだけでなく、様々な地域振興や経済活性化の効果が期待されます。



生態系ネットワーク全国会議、全国フォーラム

国土交通省・農林水産省・環境省の3省が連携して、生態系ネットワークの取組を推進しています。また、全国30市町（2020年1月現在）の首長からなる「水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議」が開催され、互いの情報が共有されています。2017年から生態系ネットワークをテーマとしたフォーラムが開催されています。

第4回 水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム

【日時】2020年1月30日（木）14：00～17：00

【場所】一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区）

【プログラム】

○基調講演

関島 恒夫 新潟大学農学部 教授

○地域における取組紹介とパネルディスカッション

[コーディネーター]

関島 恒夫 新潟大学農学部 教授

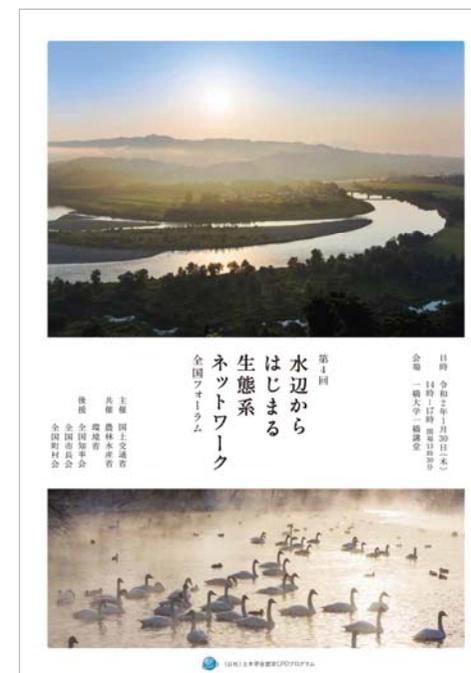
[パネリスト]

戸川 雅光 北海道長沼町長

金丸 治子 イオン株式会社 環境・社会貢献・PR・IR担当付 担当部長

呉地 正行 日本雁を保護する会 会長

高村 裕平 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長



水辺からはじまる生態系ネットワーク全国会議会員

長沼町、大崎市、坂東市、小山市、野木町、鴻巣市、川島町、野田市、我孫子市、
いすみ市、東庄市、越前市、大垣市、羽島市、一宮市、豊岡市、米子市、境港市、
松江市、出雲市、安来市、雲南市、奥出雲市、飯南町、鳴門市、阿南市、西予市、
四万十市、嘉麻市、出水市

(2020年1月現在。下線部は、新規加入市町)



生態系ネットワークに関する推進協議会の設置状況

生態系ネットワークの形成を目指して、全国の各地方、流域で協議会が設立され、取組が進められています。

地方・流域	協議会	設立年	指標種
北海道	—	—	—
石狩川流域	タンチョウも住めるまちづくり推進協議会	2016年 9月	タンチョウ
東北地方	東北生態系ネットワーク推進協議会	2017年12月	大型水鳥類 等
—	—	—	—
関東地方	関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会	2014年 2月	コウノトリ、トキ
江戸川・利根川・利根運河地域	コウノトリの舞う地域づくり連絡協議会	2014年 5月	コウノトリ、トキ
利根川流域	渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会	2015年11月	コウノトリ、トキ
荒川流域	荒川流域エコネット地域づくり推進協議会	2017年11月	コウノトリ、トキ
北陸地方	—	—	—
越後平野(信濃川・阿賀野川)	越後平野における生態系ネットワーク推進協議会	2019年 7月	トキ、ハクチョウ
中部地方	—	—	—
木曾川流域	木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会	2015年 1月	イタセンパラ 等
近畿地方	—	—	—
九頭竜川流域他	福井県流域環境ネットワーク協議会	2015年10月	コウノトリ 等
円山川流域	コウノトリ野生復帰推進連絡協議会	2003年 7月	コウノトリ
中国地方	—	—	—
斐伊川流域	斐伊川水系における生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会	2015年 4月	ガン類、ハクチョウ類、ツル類、コウノトリ、トキ
四国地方	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会	2018年 2月	コウノトリ・ツル類
吉野川流域	吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会	2017年10月	コウノトリ・ツル類
四万十川流域	四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会	2019年12月	ツル類
九州地方	—	—	—
遠賀川流域	遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会	2015年 2月	サケ 等

四国圏域、各流域での推進状況

四国圏域生態系ネットワーク推進協議会を2018年2月に設立し、2019年2月に「四国圏域生態系ネットワーク全体構想」を策定・公表しました。また、吉野川流域、四万十川流域で生態系ネットワーク形成を検討、推進する協議会が設立されています。

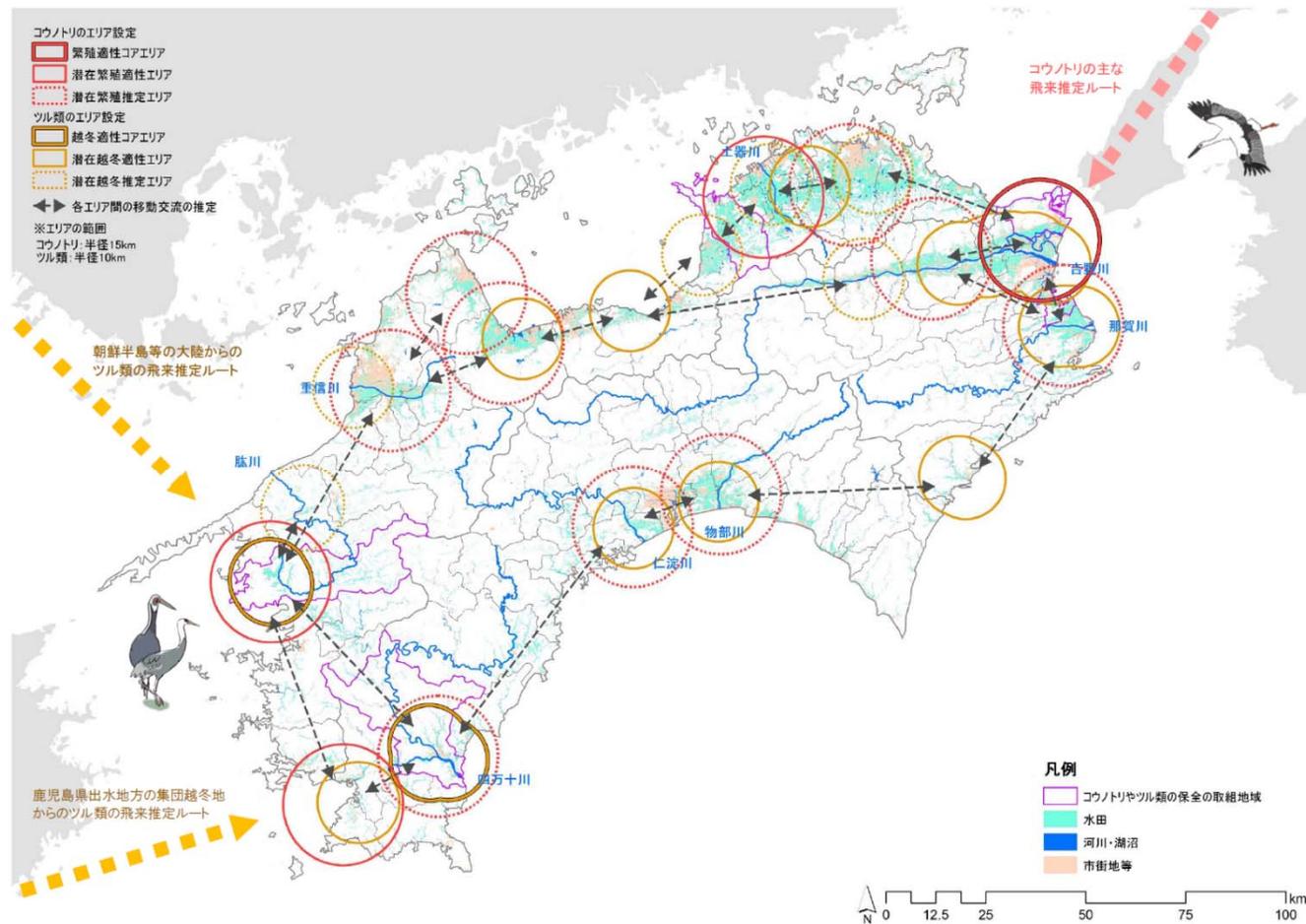
		●初年度	●2年度	●3年度	●4年度～
		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】 ● 第1回協議会 (2018.2.5)	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信 ● 第2回協議会 (2019.2.4) 全体構想の策定	● 第3回協議会 (2020.2.3)	年1回の開催を予定
	吉野川流域	吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2017年10月19日設立】 ● 第1回協議会 (2017.10.19)	吉野川流域の全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信 ● 第2回協議会 (2019.1.16) 全体構想の策定	● 第3回協議会 (2020.1.17)	那賀川流域を含む徳島県全体へ取組を順次拡大し、「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会(仮称)」へ発展移行
	鳴門地区	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】	旧吉野川での自然再生と合わせたコウノトリの生息環境づくりの検討 ● 第1回会議 (2018.11.27) ● 第2回会議 (2019.3.19)	● 第3回会議 (2019.11.5) ● 第4回会議 (2019.12.20)	適宜開催し、事業実施計画の策定を予定
	鳴門地区	鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】		コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討 ● 第1回会議 (2019.9.30) ● 第2回会議 (2020.1.10)	適宜開催し、今後の観光や人材育成等の展開を検討
	四万十川流域	四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 【2019年12月25日設立】		四万十川流域での取組状況等の共有・今後の方針の検討 ● 第1回協議会 (2019.12.25)	年1回の開催を予定 具体的な取組はワーキングで実施予定

四国圏域生態系ネットワーク全体構想

四国圏域生態系ネットワークの形成に参加する様々な主体が取組の目的と目標を共有し、連携・協働して取組を円滑に推進するために、全体構想を策定しました。

四国圏域生態系ネットワーク形成の目的

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生に基づく四国全域における生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた四国全域における地域活性化及び経済振興の実現



全体構想図

指標種・シンボルとしてのコウノトリ・ツル類

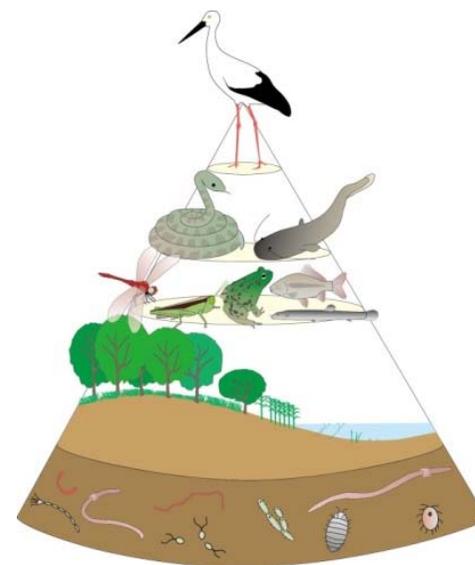
四国圏域において、以下の2つのシンボル性により、四国全体の広域的な指標種として、コウノトリ・ツル類を共通の指標・シンボルに設定しています。

①多様で豊かな生きものと自然環境のシンボル

コウノトリ・ツル類は、里地里山や河川の生態ピラミッドの頂点に立つ、高次消費者です。コウノトリやツル類が、その地域に生息することは、その食物となる多くの生きものが育まれている豊かな自然環境がある証であり、生態系サービスの質が高いことを意味します。

②自然と共生する社会のシンボル

コウノトリ・ツル類は大型の鳥類で、よく目立つことから、取組の効果を実感してもらいやすい生きものです。また、地域の人々の関心や支持を集めやすく、行動を引き出すことにつながります。コウノトリ・ツル類がくらししているという物語を付加価値とする生産物の販売や観光の推進、地域の交流人口の増加といった社会や経済の活性化への効果も期待できます。



日本国内のコウノトリの生息の現況



1971年に日本の野生コウノトリは絶滅しました。その後、コウノトリの保護増殖と放鳥が進められ、国内の野外個体数は徐々に増加しています。コウノトリの野外個体数は178羽（2019年12月6日現在）で、コウノトリの飛来自治体数は、北海道、沖縄県を含む全国47都道府県460市町村に達しています（2019年11月時点）。コウノトリの国内繁殖地は、兵庫県をはじめ、徳島県、島根県、京都府の他に、2019年には鳥取県と福井県が新たに加わりました。

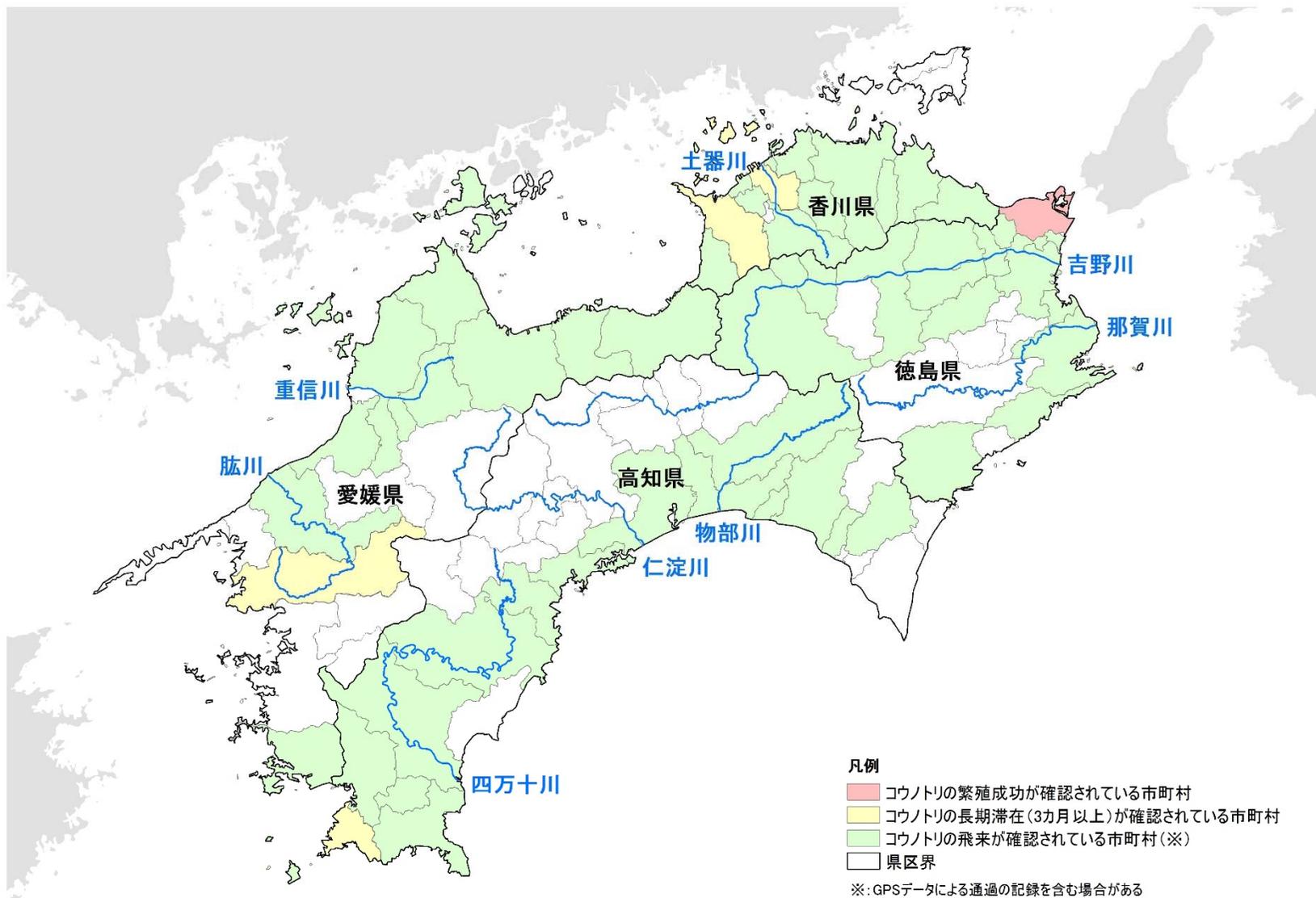
日本国内のツル類（ナベヅル・マナヅル）の生息の現況



日本はナベヅル・マナヅルの世界最大の越冬地ですが、かつて国内各地にあった越冬地は多くが消滅しています。現在、鹿児島県出水地方では、保護区の設置、給餌等の長年の努力により、1万羽以上のナベヅル・マナヅル等のツル類が越冬しています。今期も、出水市での2019年11月23日のツル羽数調査で、15,529羽のツル類が確認されています。出水市へのツル類の一極集中による感染症等の発生や農業被害などが懸念され、分散に向けた取組が進められています。

四国へのコウノトリの飛来・生息状況（2000年1月1日～2018年12月31日）

四国の各地でコウノトリの飛来が確認されています。徳島県鳴門市では、2017年から1ペアが野外繁殖に成功しています。



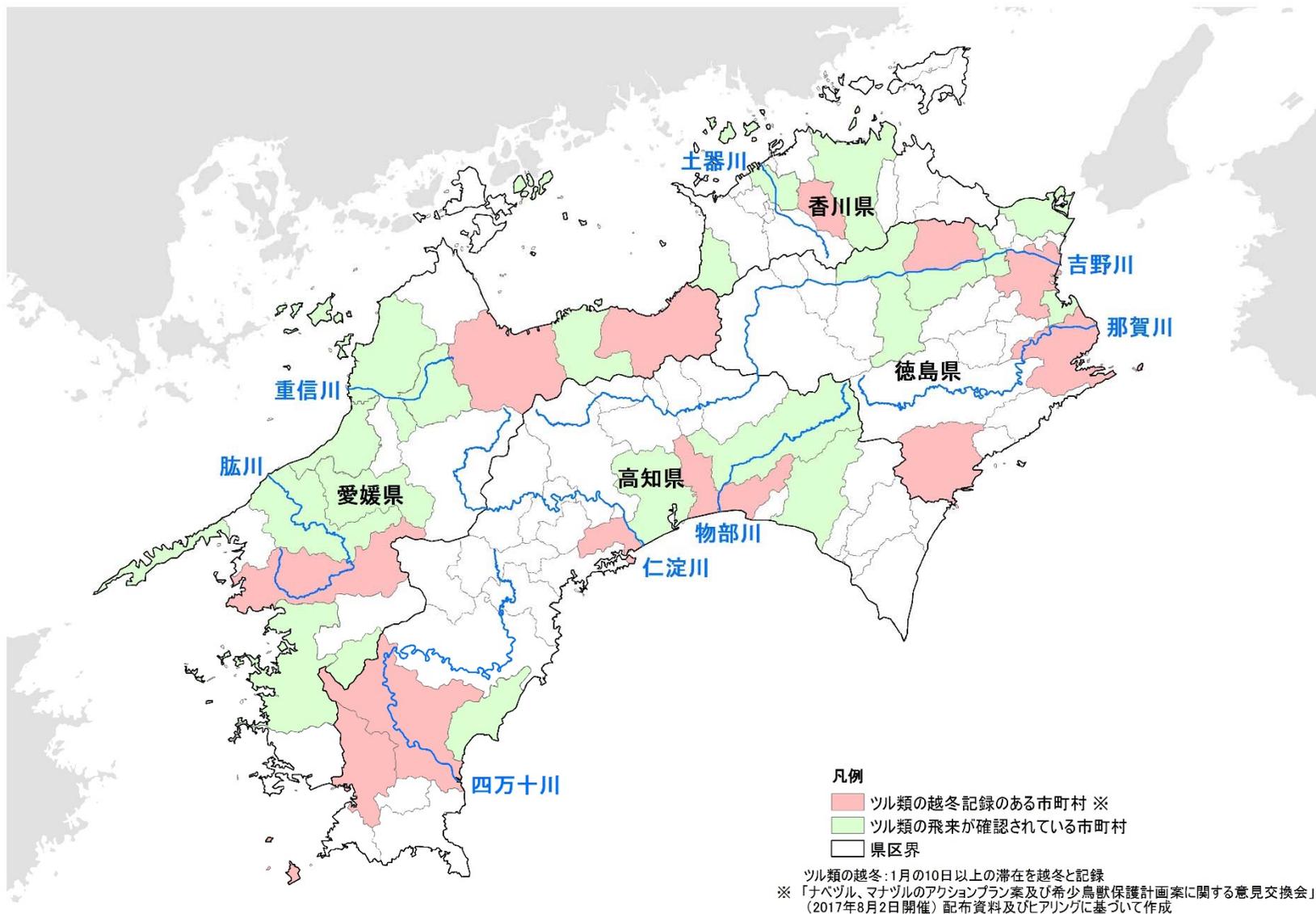
四国へのコウノトリの飛来・生息状況（2019年1月1日～2019年12月31日）

2019年も、各地でコウノトリの飛来が確認され、特に吉野川流域や香川県内で多くの飛来が確認されています。徳島県鳴門市では、コウノトリ2羽の巣立ちが確認されています。

希少種情報につき委員限り

四国へのツル類の飛来・生息状況（2000年10月1日～2019年3月31日）

四国の各地でツル類（ナベヅル・マナヅル）の飛来が確認されています。特に吉野川、那賀川、四万十川、物部川、仁淀川、肱川等の流域周辺に飛来が確認され、越冬も記録されています。



四国へのツル類の飛来・生息状況（2019年10月1日～2020年1月20日）

2019年度は吉野川流域、那賀川流域、四万十川流域、肱川流域等でナベヅルの飛来が確認され、四万十市ではナベヅル3羽の越冬が確認されています。四万十市でのツル類の越冬は3期連続となります。

希少種情報につき委員限り